

授業科目	聴覚障害Ⅱ（聴覚検査法）				
担当者	福田章一郎・矢吹裕栄・田村薫・野田祥子・山口忍				(オムニバス)
実務経験者の概要					
学科名	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	2 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

- ・難聴発見から介入、Digital 補聴器および人工内耳などの補聴効果の判定に必要な聴力検査法を具体的に解説する（福田）
- ・前期の学習内容を整理し、基礎知識の関連を確認する。また、人工内耳の原理とマスキングに関する基礎を学習する。聴覚検査におけるマスキングを理解する為にオーディオグラムを読み検討する練習を行う。（矢吹）

## ■ 到達目標

- ・聴覚障害が言語、心理および社会性の発達にどのような影響を与えるかを具体的に映像などを通じて紹介し、聴覚障害児の発達および社会生活上の困難さの理解を促す（福田）
- ・聴覚器・疾患・検査結果の関連を整理する。人工内耳の仕組みを理解する。また、マスキングの考え方を基本的な数的処理とグラフを利用して習得する。（矢吹）

## ■ 授業計画

- 第1回 乳幼児の難聴の基礎と聴覚に関する全般について解説する（福田）
- 第2回 聴覚障害児の早期発見と新生児聴覚スクリーニングの目的と意義について解説する（福田）
- 第3回 難聴の原因やリスクファクターと遺伝および症候性難聴の特徴について解説する（福田）
- 第4回 乳幼児の聴覚検査の種類とその特徴ならびにそれぞれの方法および留意点について解説する（福田）
- 第5回 乳幼児の補聴の必要性とその方法および評価法ならびに補聴手段の種類と特徴や補聴補助システムについて解説する（福田）
- 第6回 聴覚障害児への初期介入および療育法の種類と内容について聴力程度、発達などを考慮しながら解説する（福田）
- 第7回 聴覚障害の原因疾患のまとめ（矢吹）
- 第8回 聴覚器・疾患・検査結果の関連を整理する（グループワーク）（矢吹）
- 第9回 人工内耳の仕組み1（矢吹）
- 第10回 人工内耳の仕組み2（矢吹）
- 第11回 マスキングとは（矢吹）
- 第12回 マスキングの考え方（演習）（矢吹）
- 第13回 マスキングの考え方2（演習）（矢吹）
- 第14回 標準純音聴力検査について（野田 or 田村）
- 第15回 標準純音聴力検査の検査演習（野田 or 田村）
- 第16回 Bekecy 検査について（野田 or 田村）
- 第17回 Bekecy 検査について（野田 or 田村）
- 第18回 閾値上検査について（野田 or 田村）
- 第19回 閾値上検査の検査演習（野田 or 田村）
- 第20回 聴性脳幹反応聴力検査について（野田 or 田村）
- 第21回 聴性脳幹反応聴力検査の検査演習（野田 or 田村）
- 第22回 インピーダンスオーディオメーターについて（野田 or 田村）
- 第23回 語音聴力検査について（野田 or 田村）
- 第24回 聴覚検査結果の解説 検査目的と意義（山口）

- 第25回 聴覚検査結果の解説 検査目的と意義 (山口)
- 第26回 幼小児の聴力検査 (山口)
- 第27回 幼小児の聴力検査 (山口)
- 第28回 臨床の実際 発達遅滞例の聴力評価 (山口)
- 第29回 臨床の実際 補聴器機フィッティングの考え方 (山口)
- 第30回 まとめ (山口)

#### ■ 評価方法

筆記試験100%

#### ■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

- ・前期の聴覚障害 I の内容を踏まえて授業が進みます。聴覚障害 I で理解に不安のある場合は復習をしておく必要があります。(矢吹)
- ・各種聴覚検査の目的・適応・方法について理解する事。互いに測定し合い、純音聴力検査およびティンパノメトリーのプローブ装着が出来るようになること。幼小児の聴覚検査の種類と適応年齢について憶えること。補聴器フィッティングについて説明できるようになること (野田・田村・山口)

#### ■ 教科書

書名：聴覚検査の実際 (改訂4版)  
著者名：日本聴覚医学会  
出版社：南山堂

#### ■ 参考図書

#### ■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。毎回の積み重ねが重要なので極力欠席を避けるのが望ましいです。

#### ■ 講義受講にあたって

聴覚器の解剖・機能、聴覚障害の分類、難聴タイプ毎の特徴、聴覚検査の基本的事項を復習しておくことで理解が進みやすくなります。